



### 人権文化の花咲くまちづくりを進めよう

新しい年度が始まり、入学式を心待ちにしている子どもたちや、社会人としてスタートされた方など、希望に胸膨らむ季節を迎えました。

この時期に改めて「人権文化」の意味を考えてみたいと思います。兵庫県人権啓発協会によると、「日常生活の中で、お互いの人権を尊重することを自然に感じたり、考えたり、行動することが定着した生活のありようそのもの」と定義されています。

人権文化の花を咲かせるためには、日常生活の中で、どんなことが考えられるでしょうか。例えば、混んだ電車やバスでお年寄りや体の不自由な人に出会ったとき、声を掛けたり自然に席を譲ったりすること。また、雨の日に車で歩行者に出会ったとき、車のスピードを落として、泥水がかからないように相手のことを考えて行動することなど、決して難しいことではありません。

市教育委員会は市民の生活の基盤である町(自治会)での人権教育を進め、人権意識の高揚を図るために、人権教育推進員を委嘱しています。推進員の役割は、人権に関する講演会や学習会に参加し、さまざまな人権課題について学ぶことや、自分の居住する町で開催される人権学習会を企画・運営することなどです。

推進員を務めた方の中には、「望んで引き受けたわけではないが、いろんなことを正しく知って何でも前向きに考えるようになった」「家事や育児は女性の仕事だと思い込んでいたが、少しずつ自分も参加するようになり、家庭が明るくなった」などという方もおられます。

市民の皆さんも推進員さんと共に、人権文化の花咲くまちづくりを進めていただけたらうれしいです。

### 市長からの手紙 — 西脇を元気に!! —

135



2月に開かれた第2回意見交換会には4分団から計15名の団員が出席

**地域の要「西脇市消防団」**  
岩手県大船渡市で12日間も燃え続けた林野火災に、かつてない恐怖を感じるとともに、多くの方の財産だけでなく、尊い命までも奪われる大規模林野火災の恐ろしさを目の当たりにしました。その消防活動に関わる中には、常備消防はもちろん、地元の消防団員の勇姿もあり、長期化する災害における地元消防団の存在の大きさを改めて感じ、頭の下がる思いでした。  
現在、西脇市消防団は7分団、団員数841名です。人



西脇市長 片山 象三

口減少による団員数の減少や団員の高齢化、働き方の変化による昼間団員の減少など、消防団を取り巻く環境は大きく変化しています。  
このような中、本市消防団では年末警戒や操法大会などに見直しを重ねられ、昨年9月には幹部と若手団員間で初めて「消防団意見交換会」が開催されました。会では家族や子どもたちに消防団の活動をなかなか理解してもらえない悩みも話題に上がりました。これらの意見を受け、地域全体で「消防団の重要性」を再認識していただけるよう、行政としてもできることを進めていきたいと思っています。  
団員の皆さまには、災害時だけでなく、夏祭りや行事の警備などさまざまな場面で活動いただいていることに深く感謝申し上げますとともに、「地域の要」として、今後も必要な改革を行いつつ地域の安全・安心のため活動を展開していただきたいと思います。

みんなでまちづくり—市民の皆さんのまちづくり活動—

### 地域で残そう みんなの加古川線

～JR加古川線(西脇市駅-谷川駅)維持・利用促進地域協議会の紹介～

JR加古川線(西脇市駅-谷川駅)維持・利用促進地域協議会は、沿線の自治協議会3団体(黒田庄まちづくり協議会、比延自治協議会、久下自治振興会)が連携し、地域住民の日常生活や観光・交流など、地域活性化に欠かせないJR加古川線の維持存続と利用促進のために活動しています。



これまでの取り組みとして、沿線での利用促進イベントやレンタサイクル、横断幕の掲示など、さまざまな活動を行っています。今後もそれぞれの地域で、3地域合同で、たくさんの催しを予定していますので、ぜひJR加古川線に乗って遊びに来てください。



多角形の竪穴建物跡(弥生時代後期)



弥生時代に描かれた鹿  
【兵庫県立考古博物館提供】



大垣内遺跡は加古川上流域の西岸、標高62m前後の加古川の沖積地に立地する遺跡です。対岸には4世紀代(古墳時代前期)の前方後円墳である岡ノ山古墳があります。  
昭和62(1987)年の発掘調査により、弥生時代および古墳時代前期と後期の集落跡が見つかりました。弥生時代の竪穴建物跡は8棟あり、そのうちの3棟は多角形の竪穴建物跡でした。また、古墳時代前期の竪穴建物跡も3棟見つかりました。  
出土品には分銅形土製品という他地域から持ち込まれ、広域流通が行われていたことを示す珍しい遺物や、鹿が線刻された弥生土器があり、県立考古博物館(播磨町)で展示されています。

### 大垣内遺跡(大垣内)

ふるさとの魅力再発見—にしわき歴史探訪

67

▼問合せ 郷土資料館(☎23-5992)

西脇の自然 613

### ホソミオツネトンボ

あおいととんぼ科



3.5~4センチほどの小型のトンボで、成虫で越冬するので「越年」。そして本種と同じく成虫越冬するオツネトンボより細いので「細身」が名前の由来となり、ホソミオツネトンボの名前が付けました。

冬はこのトンボが生息している池など水辺周辺の林縁部で越冬し、色は周囲の風景に溶け込むように地味な茶褐色ですが、春には成熟して鮮やかな青色になるため、成熟しても体は茶褐色のままのオツネトンボと区別できます。また、翅先の縁紋の重なり方や胸部の模様などでも判別できます。

兵庫県ではよく見られる種ということですが、見掛けたことは数えるほどしかなく、春に偶然青く色付いた本種を見たときは焦って写真撮影に苦労しました。

【西脇市動植物生態調査研究グループ】